

## 「昭和の教科書」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

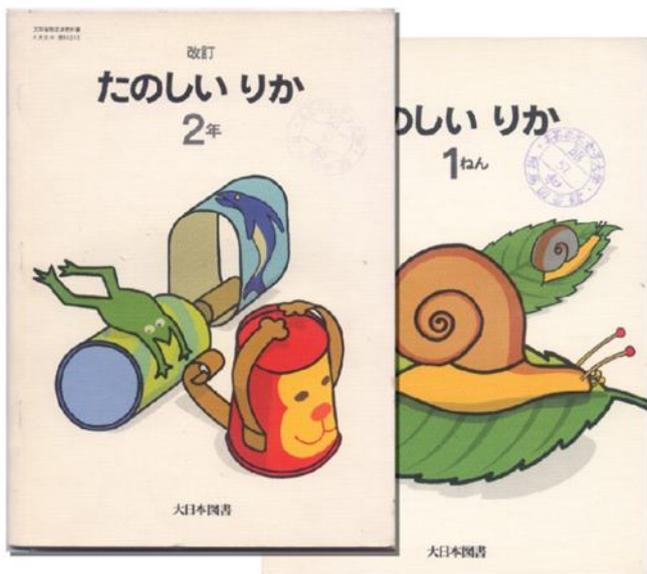
小学校低学年(1・2年生)で生活科が施行されたのは、平成4年度(1992年)である。それまでは、低学年にも理科の教科書があった。もちろん、私も子どもの時にそれで学んでいた・・・はずである。職場の資料室には、それらの昔の教科書が大切に保管されている。今では、貴重な資料と言えるだろう。



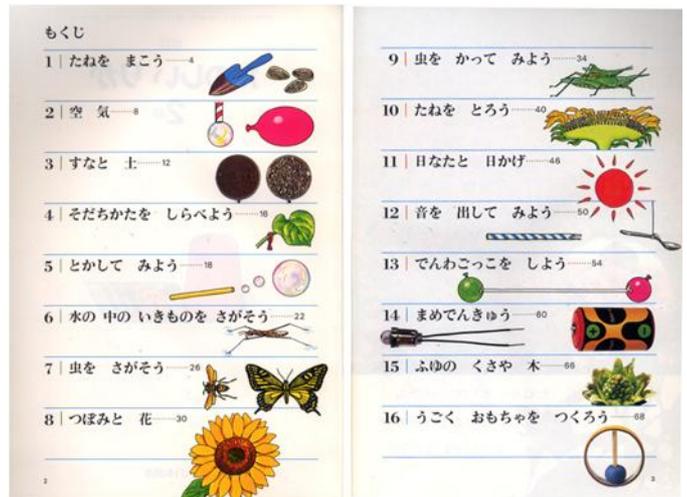
### 「資料室の昔の教科書」

戦前の教科書から平成の教科書まで、貴重な資料が保管されている。指導書もあり、勉強になる。

その中に、昭和55年発行の、1・2年生の理科の教科書(大日本図書)もあった。まず、表紙がいい。今の教科書よりもシンプルで、落ち着きがある。



2年理科教科書の「もくじ」を見てみよう。現在3年生で扱っている単元を中心に、実に16単元(というよりも16活動といったほうが良い)もつまっている。(5)の「とかして みよう」などは、現在は5年理科で扱っている内容の、基礎的な部分である。



私は、「音を出してみよう」という単元のページに心ひかれた。現在、3年以上の理科で、「音」を中心に扱った単元は存在しない。ところが、昭和時代の子どもたちは、「音」と「振動」の関係を、2年生ですっかりと学んでいる。まず、子役モデルの表情が良い。子どもの服装も「昭和」を感じさせて、なつかしい感じがする。内容も、余計なことは書かずに、写真と補助イラストで、子どもに「やってみたいな!」と思わせる構成になっている。私は、今の2年生でも実践してみたくなってきた。これはお宝発見である。

